

週日の説教

金 大烈 神父 2010年12月1日(水)

《お互いに分かち合う大切さ》

主の平和

皆様、アフリカでは食べるものがなくて餓えて死んでしまう、飢饉で死んでしまう赤ちゃんが多くいることを何回も申し上げましたよね！今、1ドルは日本円でどの位でしょうか。今日の為替で83.87円でした。地球の人口は今60億人を超えていると思いますが、では1ドル未満の暮らしの人々はどの位いると思いますか。一日の生活費が1ドルにならない人々は？驚かないで下さい。今現在、推計で10億人だそうです。10億人の人々が90円未満のお金で一日を過ごしています。そうすると2ドル(180円)未満で暮らしている人々を考えるととってもすごい人数でしょう。日本の一般的な生活費はこのおおよそ10倍でしょうか。今、日本の物価では、何か食べようとすればすぐ500円位はかかるでしょう。このような事情を、このような世界を、神様の目で見ようとすれば心は痛くなりますね。

さあ、面白い話をします。ヨーロッパ等では、私達のようにお米を主食にしないで、パンを主食とし毎日食べますね。パン屋には朝早くから毎日新しいパンが並びます。午後になると人気のものは売り切れになるでしょう。しかし、午後の6時半になっても売れ残っているパンは、お店に陳列してはいけなく、全部捨てなければならぬのだそうです。これは法律上で決められていることだそうです。なぜこのような法律ができたかと言うと、消費者、いわゆる食べる人々の口が高級になって、形がおかしかったり、焼きすぎの色だったり、暖かさがなかったりすると「何故こんなものを売するのか！」と訴えられるのだそうです。そして、パン屋とパン屋の間でも、ちょっと時間の経った物を並べて置くと、告げ口されてしまうそうなのです。パン屋の業界で、このような問題をどのように解決すればいいかと、色々話し合いがされたそうです。しかし、よい解決方法を見つけ出すことが出来なかったそうです。買う人々の認識を変えなければ、こういう状態は続くと思います。その時捨てられる毎日のパンの量は、ヨーロッパだけのもので、アメリカだけのもので、どれ程でしょうか。考えられない量です。きっとアフリカの子供たち全部を満たしても残る量でしょう。

さあ、もう一つの例え話です。大型スーパーマーケットがありますよね。イオンとかもあちこちにあるでしょう。日本でもどの国でも賞味期間という言葉があります。その商品の賞味期間は守らなければいけませんね。法律的にも、また衛生的にも賞味期間は守るべきです。しかし、その賞味期間と言う言葉にある違う面も見なければなりません。例えば賞味期間2~3日残っていても全部捨てるのが一般的な店のやり方です。なぜなら消費者も2~3日しか残っていない賞味期間の品物に手を伸ばさないからです。大型のマーケットにあるものはそういうことでほとんどが捨てられてしまいます。全世界の大型マーケットから捨てられる量を想像して見て下さい。これも考えられない量でしょう。

では、そのようにして損はないのでしょうか。色々な国で対策を考え取り組んでいます。まだ賞味

期間が残っているもので、食べても全然体には影響がないと思われるものは割り引いて売られます。買い手がなければそれは捨てられるものです。買う人も2~3日残っている賞味期間であれば、すぐに処理するからいいという気持ちで買い求めます。捨てられるより、廃棄処分されるよりいいでしょうという動きがあります。

ある会社の話です。会社には食堂があって2~3年前には残るものが半分以上あったそうです。それで食事の時の食べ残しを捨てるごみ箱を無くしたそうです。食堂を利用する社員に何回も食べ物の大事さ、残るものを処分するためにかかるお金とか環境の問題とか、色々強調したそうです。そのうちに社員は、自分も知らないうちに自分の食べられる量をちゃんと量って食べる雰囲気が出来たそうです。そして当然生ゴミが殆ど出なくなったそうです。

私達の食卓から出る生ゴミも結構あるでしょう。ちょっと冷蔵庫を見たら「これはもうだめだ」と思って捨てますよね。私もそういうことがあります。しかし、今日の福音を読んで私が反省したのはやはり“正しく使うこと”そして“適当に使うこと”。それによって救われる人々がいるかも知れないという意識が必要だと思いました。

そうしたらこういう質問が出ます。「そのヨーロッパの、アメリカの、また日本も他の国々も、パン屋がパンを捨てなければアフリカの子供たちに、そこに住む人々に、どのような影響があるのでしょうか」と。「何の関係があるのか。」と質問が出ますよね。皆様はどう思いますか？

捨てる物の量が増えれば増えるほど、小麦粉の値段は段々上がって行きます。結局パンを適当に捨てないで、ちゃんと食べることになったら、その小麦粉と、パンの値段が低くなり中間マージンを取る者達も少なくなるということです。

皆様、今日の福音（マタイ 15・29~37）で弟子たちはイエス様にこのように言いましたね。『この人里離れた所で、これほど大勢の人に十分に食べさせるほどのパンが、どこから手に入るでしょうか』と。このように私達の常識では1ドル未満、たまには50セント未満の生き方している人々を救う方法が全然見えないかも知れません。しかしイエス様が教えて下さったその福音の常識は私達が考える常識を超える常識です。

今日の福音のメッセージは、「私はあなたがたに十分にあげてある。しかし、分かち合いができないからこのような世界になってしまった」とイエス様はおっしゃっていると思います。だから少しでも“憐れみを持って、お互いに分かち合うことができれば、餓えて死んでしまう子供はいなくなるのでしよう。”というメッセージが隠れていることをもう一回考えてみましょう。

ありがとうございました。